

長期ステロイド使用後のリバウンドを記録した成人アトピーの経過（31歳）

症例 ID：001-30-AS | 記録日：2002 年 12 月

1. 診断・治療前経過

患者さんのステロイド使用期間は約 25 年でした。22 歳までは外用薬のみを月 1 本程度使用し、23 歳頃に症状が強くなってからは、約 1 年間でステロイド、抗アレルギー剤、抗ヒスタミン剤の内服と、外用薬を月 4～5 本ほど使用しました。

外用薬は強さの異なる薬を複数処方され、顔・首・手など部位によって使い分けるよう言われていました。2002 年 12 月時点では松本医院へ来院して 2 年半、リバウンドを何度も経験していました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	約 25 年間のステロイド外用歴があり、23 歳頃にはステロイド・抗アレルギー剤・抗ヒスタミン剤の内服と外用薬を使用しました。ステロイドテープの使用歴もあります。
製品名	8 種類のステロイド外用薬。具体名は不明。テープタイプの使用歴があります。
強度	強さのランク 2 群・3 群の外用薬を 1 年で 8 種類処方されました。
使用期間	約 25 年。22 歳までは月 1 本程度、23 歳頃には月 4～5 本程度の外用薬使用がありました。
中止時期	松本医院で治療開始後にステロイドを中止する方針となりました。
来院前／後	来院前に長期使用歴があります。来院後の使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
0～22 歳頃	来院前	外用薬のみで月 1 本程度のステロイドを使用していました。
23 歳頃	来院前悪化	症状が強くなり、ステロイド、抗アレルギー剤、抗ヒスタミン剤の内服と、外用薬を月 4～5 本ほど使用しました。
松本医院来院後	治療開始	ステロイド治療をやめ、漢方治療を始めました。
来院後 1 年目	ピーク期	全身からリンパ液が出て膿がたまり、手足に大量の水疱ができました。体中が真っ赤に腫れ、皮膚が硬くなって剥がれ落ち、関節のひび割れで歩行困難が続きました。平均体温は 37 度前後でした。
約 1 年経過後	回復傾向	強い症状が約 1 年続いた後、徐々に回復に向かいました。
来院 2 年半～3 年時点	中間経過	現在は良くなってきていますが、3 年経った時点でもリバウンドはありました。IgE 抗体は着実に下がってきていました。

4. ピーク時期

ピークは、来院後1年目に全身からリンパ液が出て膿がたまり、手足の大量の水疱、全身の赤い腫れ、皮膚の剥離、関節のひび割れによる歩行困難が重なった時期です。皮膚が空気に触れると痛く、包帯やガーゼで覆う必要がありました。

5. 患者さん・家族の困りごと

- ・約25年のステロイド使用歴があり、リバウンドが長期化しました。
- ・歩行困難、全身の浸出液、発熱傾向、じんましんなど、生活への支障が大きい時期がありました。
- ・治療のために仕事や人間関係、時間など多くの負担を抱えた経過があります。
- ・漢方治療の費用負担もありました。

6. 経過のまとめ

来院後1年目には、全身のリンパ液、膿、水疱、腫れ、皮膚の剥離、歩行困難など強い症状が続きました。その後、徐々に回復に向かい、3年時点でもリバウンドはありながら、IgE抗体は下がってきていました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。